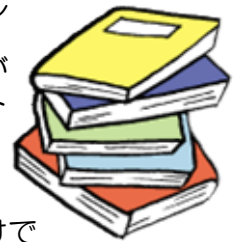




日が短くなり、秋の夜長に読書を楽しみたいところですね。読みたいと思って購入しても、買って満足してしまい、積読（買って机の上などに積んでいるだけで読んでいない本や雑誌）がたくさんあります。いつか読むはずとありますが、本には旬があるそうで、買ったときが一番読みたいときなのだそうです。確かに、インターネットで頼んでも届くころには、他のものに興味が行っていることが多くあります。



新人研修も残すところわずかになってきました。最近の新人研修から、受け身だけでなく、自ら考え行動している様子を少しお知らせします。

10月24日 褥瘡研修

講師：皮膚・排泄ケア認定看護師の中村文枝さん

講義中大きくうなずいていた新人看護師に声をかけると、「とても面白かったです」と学ぶことを喜んでいる様子が見えました。

また研修後に講師に質問に行く新人も何人かいました。その場で回答してもらいましたが、他の新人にも伝わるように、文章でも回答してくれています。その回答用紙の最後に新人へ書かれた講師からのメッセージを載せさせてもらいます。

『看護は一概にこれが良い・悪いとはいえないことが多いです。看護を決める根本はアセスメントです。その患者さんの状態・状況に合わせた看護を導き出しましょう。』

そのためには知識がないと最善の方法を導き出せませんので、どんどん知識を蓄えましょう。』



10月10日 看護診断①

11月21日 看護診断②

担当：看護記録委員会

研修目的：アセスメントに基づいて看護診断ができる

到達目標：看護診断①
看護診断が理解できる
看護診断②
事例を通して看護診断ができる

看護診断①では、概論、アセスメントの重要性について学び、その後グループワークを行いました。

看護診断②では、グループに分かれ、事例を通して看護診断を実際に行いました。いずれも事前課題が出ていたので、事前学習をしたの参加になりました。

グループワークのなかで、新人看護師「自分では〇〇と考え、このように看護診断したのだが、先輩には△△とアドバイスをもらいました。」やや腑に落ちない様子の新人看護師に対し、担当の記録委員から「じゃあ、NANDA-1で調べてみよう」との会話が見られました。自分たちで考え、わからなければ調べる。教えられるだけでなく、考える習慣をつけてくれます。



生きるを、ともに、つくる。 公益社団法人 日本看護協会

これまで私たちは、ひとりひとりの患者と向き合い
病院看護を中心に、生きる力を引き出す技術を磨いてきました。
それは、揺るぐことのない誇りです。

けれど、いま、変わらなくてはなりません。

少子・超高齢化、医療費削減、在宅医療の増加により
看護の力は病院だけではなく、あらゆる場所で必要とされています。
最期までを、看続けるためにも。
私たちはいま、「暮らし」というフィールドに立ち、
これまでなかった看護のかたちを実現させなければなりません。

地域全体を見渡せる、看護システムは。
安心して、在宅医療を選択できるためには。
問われているのは、**看護職ひとりひとりが考え、行動すること。**
もっと自由に。もっと強く。

未来に向け、求めあう手と手がしっかり届き結ばれるような環境を
新しく作り上げていきたい。私たちは、そう思う。

<http://www.nurse.or.jp/home/about/tagline/movie/introduction.mp4>

ステートメント

企業・団体が社会に対して果たそうとする内容や約束する価値を
簡潔な文章・言葉で表現したもの。

朝晩、めっきり寒くなってきました。
年末に向け忙しくなると思いますが、
体調を崩さないように
していきましょう。

